



河崎文庫 ★★★

三重県伊勢市河崎町、かつての伊勢の台所
水運の街として栄えたこの場所の架空の歴史
を土地に根ざした文学・学術文庫の存在を創造
することによって積極的に誤認するプロジェクト



著者別
番号

青

1-1

三重県伊勢市河崎町は江戸時代には、全国各地からの参宮客でにぎわう伊勢に勢田川の水運を利用して大量物資を供給する大問屋街として発展し、明治時代まで伊勢の商業の中心を担っていました。

戦後になると、水上輸送から陸上輸送中心になり、問屋街としての河崎は衰退してしまい、さらに昭和49年の水害による河川改修のため歴史的な建物が減少してしまいましたが、川沿いの石積みの蔵、本通り沿いの商家や町屋や建物を演出する世古道など、当時の面影を感じることができる町並みは今でも残っています。

地面に咲く花に横たわる大切な人達に「さよなら」をするための作品を作っていた私は、その河崎の町をさまよいながら、知らず知らず土の見える場所を探している自分に気づいたのでした。



「さよならの押し花」2004

「河崎の大地はどこに？」と考えたときふと、「ああ、そういえばこの町の地下には水があったんだ」と河から陸に変わっていったこの場所の元々の姿を夢想していました。

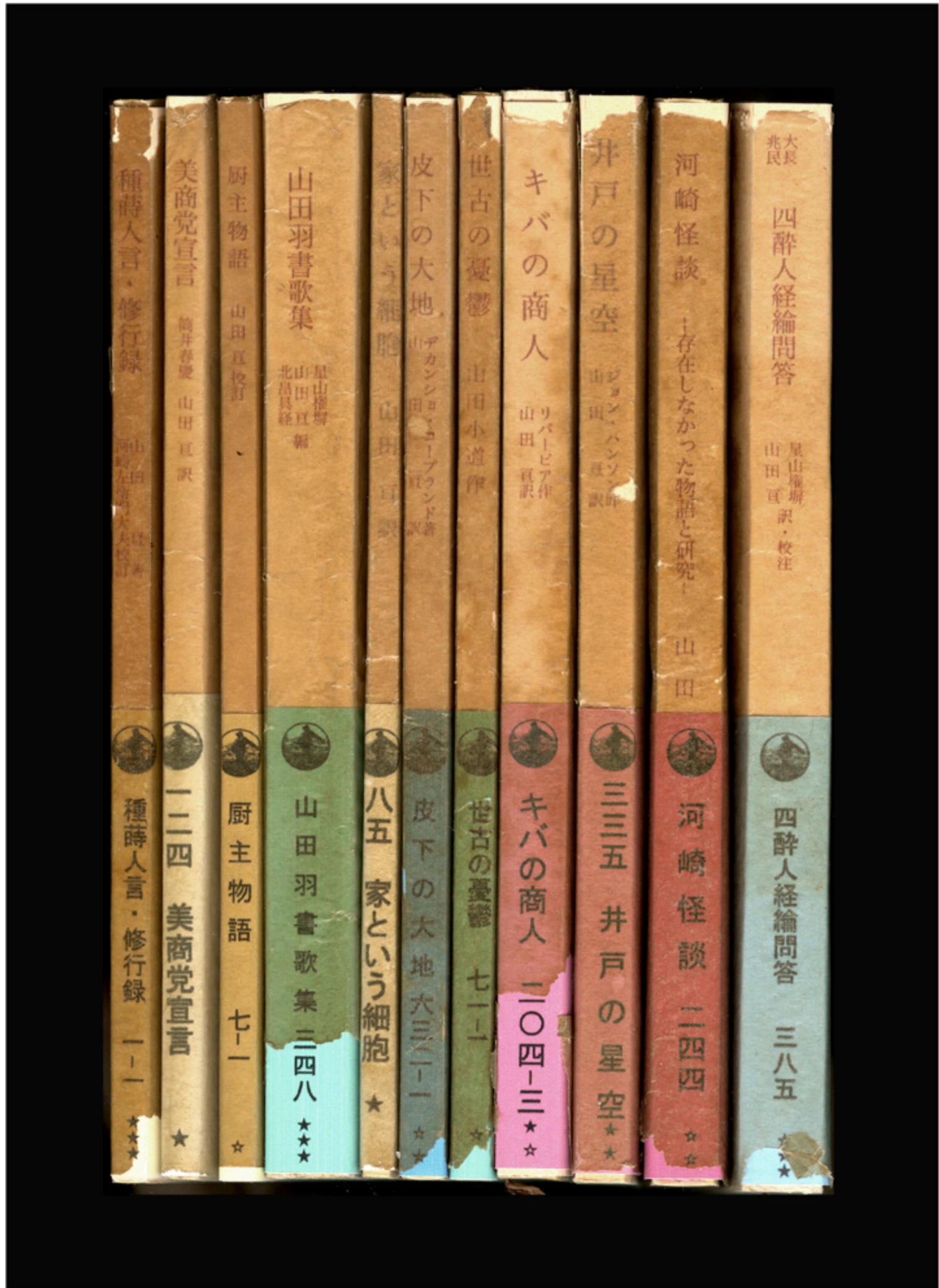
自分が住んでいる家や道や川の下にも本当は土の大地が広がっているのに町に住む私たちはそんなことを忘れて暮らしています。そんな風に表面を包まれてしまった街の中にも所々にちょっとだけ大地がうっかり顔を出していることがあります。壊してしまった建物や使われなくなった庭のような何かを失ってしまったと思われている所にこそ、遙かなる大地が顔を出し、何かを生み出すために控えているのです。そんな大地に「私は種を蒔こう」と考えました。確証はないけれど、新しい「こと」が始まるための種を蒔く行為そのものを、形にしてみようと思ったのです。フランスのバルビゾン派の画家ミレーに「種蒔く人」という作品がありますが日本の知の普及に貢献した「岩波文庫」のマークはこのミレーの作品から作られています。

私はこの「岩波」という「陸の波」の文庫に敬意を表し「河崎」という「水の土地」の文庫を作りました。

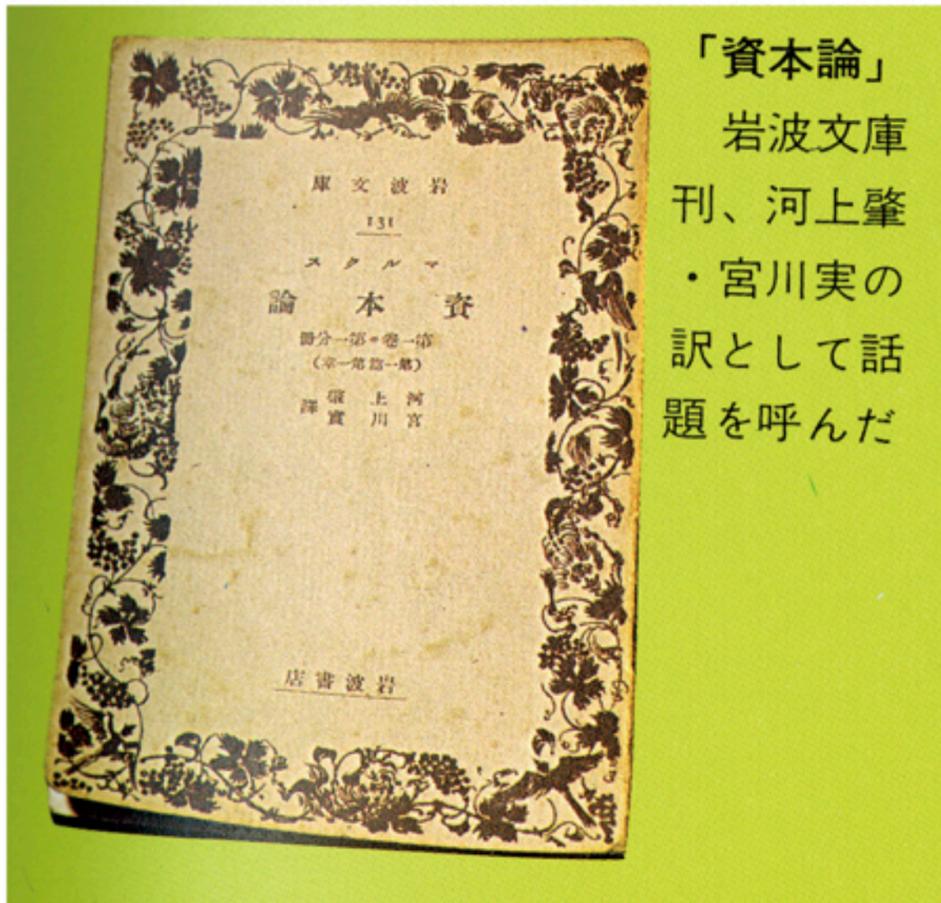


ミレー「種蒔く人」 岩波文庫ロゴマーク

河崎を裏返してもう一度あたらしい場所として見直すためにミレーの作品の姿で種を蒔いた私は、そのことの写真を撮り裏返しに焼きました。それが、わずかにのぞく大地から、種蒔く私が収穫(創造)した河崎のお話をあつめて作った、この「河崎文庫」の新しいマークなのです。



河崎文庫の 11 冊 背表紙



「資本論」
岩波文庫
刊、河上肇
・宮川実の
訳として話
題を呼んだ



岩波文庫は日本初の文庫本のシリーズで、本を安価に流通させることを目的として創刊されました。当時の教養・啓蒙主義のもと、知識を一般民衆に普及させるために刊行したという旨とともに、ドイツのレクラム文庫を模範としたことなどが書かれています。現代普及している「文庫本」のスタイルを完成させたのが岩波文庫であると言ってよいでしょう。

主に日本や世界の古典、学術書の中でも評価の定着したもののみを収めるという方針をとり、原則として絶版はなく、定期的にリクエストの多い過去の刊行物の復刊を行ないます。かつてはカバー（ジャケット）は無く、パラフィン紙で覆われていた。定価は金額ではなく星印で示しており、星いくつで〇円などと計算していました。



岩波文庫の象徴ともなっている表紙の縁取りに河崎の町のアイコンを紛れ込ませた表紙を持たせることで岩波文庫の持つ「古典、学術書として定着したもの」という意味付けを架空の物語に付加していくこととなります。

種蒔人言・修行録 ★★★

大地の見えぬ町に露出する僅かな地面に種を蒔く男の修行の物語。種という約束なき布石を蒔く行為そのものに生きることを示唆する



著者別
番号

黄

1-1



種蒔人言・修行録

—|—

★★★

表紙にかけられるオビの色によって大きく5つに分けられます。



- * 青 - 東洋思想（日本思想、中国思想、インド哲学）。宗教学。歴史学。地理学。芸術学（音楽 美術）。哲学。教育学。自然科学（科学史、解剖学、数学 天文学、植物学、物理学）。
- * 黄 - 日本の古典文学。（徳川時代までの作品）
- * 緑 - 日本の現代文学。（明治時代以降の近代文学）
- * 白 - 社会科学（西洋）（法律、政治、経済、社会）。
- * 赤 - 海外文学

河崎文庫

30-001-1

種蒔人言・修行録

山田 亘 著
河崎左衛門大夫 校訂

種蒔人言・修行録 ★★★

大地の見えぬ町に露出する僅かな地面に種を蒔く男の修行の物語。種という約束なき布石を蒔く行為そのものに生きることを示唆する



著者別
番号 黄

1-1

河崎文庫 表紙



岩波文庫ロゴマーク



河崎文庫ロゴマーク



撮影時



裏焼き

撮影はミレーの種蒔く人と同じく右手で種を蒔き、写真を裏焼きすることによって左手で種蒔く人となります。

町を裏側から見ることで、住民にとって日常的な町並みを異化し、写真の中に物語の種を育てるための地面を新たに作っていくのです。





伊勢河崎 河崎蔵における展示の様子 2005





河崎文庫

著 者 山田 亘

発行所 河崎文庫 (愛知)

印刷 PAC印刷

製本 山田製本

発行日 昭和八十一年六月

© Ko Yamada Printed in Japan 2006